2017.9.16 GEWANDHAUS 龍ヶ崎ゲヴァントハウス【オリジナルCDコンサート】

見直そう！“パパ”ハイドンの魅力を探る

プログラム

104曲の交響曲、68曲（偽作除く）の弦楽四重奏曲を中心にあらゆる楽曲に数多くの傑作を残し、“交響曲の父”“弦楽四重奏曲の父”と呼ばれるオーストリアの大作曲家ハイドン。古典派器楽様式を完成させるなど先進的な役割を果たし、モーツァルトやベートーヴェンと共に古典派を代表するひとりですが、この両巨星に比べ、人気、存在感等で負けていると感じる方も多いと思います。そこで今日はハイドンにスポットを当てその魅力を探ります。

ハイドンはハンガリーとの国境に位置するローラウで、音楽好きで車大工の父を持つ家庭に生まれました。音楽学校の校長をしていた叔父に音楽の手ほどきを受け、才能を開花させて行きます。ウィーンの聖歌隊の一員として働いた後、1759年に貴族モルツィン伯の宮廷楽長、1761年には西部ハンガリー有数の大貴族、エステルハージ家の副楽長に就任し、数多くの名曲を生んで行きますが、1790年侯爵の死後はエステルハージ家を離れ、ロンドンで成功していたザロモンからの依頼でイギリスに渡ります。ここでは交響曲の第93番から104番までの名作群通称「ザロモン・セット」を作曲、その後も「天地創造」や弦楽四重奏曲「皇帝」等が生まれます。生涯にわたって時代を代表する数多くの名作を残したハイドン。もっと見直されてもいい作曲家ではないでしょうか。今日は各ジャンルから名曲の数々をご紹介します。

短調の特性を生かしながら、愛らしさと情熱を持ち合わせたピアノ・ソナタ第34番。チェロ協奏曲第2番は流麗に歌う美しい響きと男性的な力強さも魅力的なこのシャンルの傑作のひとつです。弦楽四重奏曲「皇帝」は自身が作曲した歌曲「皇帝賛歌」の旋律を用いた第2楽章の変奏曲が有名な作品ですが、他の楽章も充実した響きを持った名曲です。「天地創造」は旧約聖書の創世記を題材にした大作で、輝きに満ちたオラトリオの傑作のひとつです。交響曲第101番は「ザロモン・セット」の中の一曲で、第2楽章が時計の振り子のようなリズムを刻む事から「時計」の愛称で親しまれている名作。交響曲第92番はエステルハージ家に仕えていた頃の作品ですが、1791年にイギリス滞在中にオックスフォード大学から名誉博士号を贈られた際に演奏した事から「オックスフォード」という愛称が付けられました。ハイドン作品の特質を集約したような傑作です。（中川）

＊＊＊＊＊＊＊

フランツ・ヨーゼフ・ハイドン（1732～1809）：
ピアノ・ソナタ第34番ホ短調Hob Ⅹ Ⅵ-34
シューラ・チェルカスキー(ピアノ)
（1994.2.20　サントリーホールでのLive）

チェロ協奏曲第2番ニ長調Hob Ⅶ b-2～抜粋
クレメンス・ハーゲン(チェロ)
マルチェッロ・ヴィオッティ指揮ザールブリュッケン放送交響楽団
（1994.2.11　グローサーゼンテザールでのLive）

交響曲第101番ニ長調“時計”Hob Ⅰ-101～抜粋
コリン・デイヴィス指揮ウィーン・フィルハーモニー管弦楽団
（1974.8.8　ザルツブルク、モーツァルテウムでのLive）

＊＊＊ 休 憩 ＊＊＊

弦楽四重奏曲第77番ハ長調“皇帝”Hob Ⅲ-77～ 抜粋
アルバン・ベルク弦楽四重奏団
（1993.11.19　サントリーホールでのLive）

オラトリオ“天地創造”Hob ⅩⅩⅠ-2 ～ 序奏―第2部“主のみ力は大いなる”―第3部終曲
ゲニア・キューマイアー（ソプラノ）／ミヒャエル・シャーデ（テノール）
トーマス・クヴァストホフ（バス）／ベルリン放送合唱団
サイモン・ラトル指揮ベルリン・フィルハーモニー管弦楽団
（2008.3.23　ザルツブルク祝祭大劇場でのLive）

交響曲第92番ト長調“オックスフォード”Hob Ⅰ-92～第1楽章、第2楽章、第4楽章
リッカルド・ムーティ指揮ウィーン・フィルハーモニー管弦楽団
（1997.5.8　ウィーン・コンツェルトハウス大ホールでのLive）

★ホームページアドレス　http://www.bekkoame.ne.jp/~hippo/gewandhaus/